令和7年6月23日 一般会計予算決算委員会

開会 午前 9時 02分

○事務局長（落合和之君） 互礼をもって始めたいと思いますので、ご起立ください。相互に礼。ご着席ください。

はじめに委員長よりご挨拶をお願いします。

○委員長（坪井仲治君） 皆様、予算決算委員会ということでよろしくお願いいたします。

この後、分科会報告を各委員長から行いまして、その後、採決がございますのでよろしくお願ひ申し上げます。

以上でございます。

○事務局長（落合和之君） ありがとうございます。それではこれより先の進行につきましては委員長お願いいたします。

○委員長（坪井仲治君） ただいまの出席委員数は17人です。菊川市議会委員会条例第16条の規定により定足数に達しておりますので、一般会計予算決算委員会を開会いたします。

それでは、審査事項に入ります。6月11日に本委員会に審査を付託されました、「議案第44号令和7年度菊川市一般会計補正予算(第1号)」を議題とします。この議案は6月11日に、各分科会で審査いただきましたが、本日はそれぞれの分科会長から審査内容の報告および質疑を行い、自由討議、採決により委員会としての結論を出したいと思っております。

なお質疑については、自身が所属しない分科会への質問に限りお願いいたします。

また、分科会分科会内での審議内容については、会議録で確認をお願いをしておりますので質問しないこととなっております。議事進行へのご協力をお願いいたします。

それでは、「議案第44号令和7年度菊川市一般会計補正予算第1号」を審査します。

初めに、総務建設分科会の報告を行いますので進行を西下副委員長と交代します。

○副委員長（西下敦基君） はい。それではここからは、私が進行させていただきます。

坪井総務建設分科会長から審査内容をご報告ください。

○委員長（坪井仲治君） 総務建設分科会の報告をいたします。

6月11日の本会議において一般会計予算決算委員会に付託された、「議案第44号令和

7年度菊川市一般会計補正予算（第1号）」のうち、本分科会の所管事項について、6月11日に行った審査内容を報告する。令和7年6月19日、菊川市議会一般会計予算決算委員会 総務建設分科会長坪井仲治。

総務部主たる質疑。

「菊川市魅力発信事業で、追加看板の材質サイズ、設置箇所、設置期間、イラスト作成の委託先と委託料の妥当性は」との問いに、今回設置する看板は、アルミ製の1本支柱で高さが110センチ、45センチ四方の板面にイラストをシートに印刷をして貼付をする予定である。また、看板の設置箇所は市内の5か所で、具体的には赤れんが倉庫、塩の道公園、黄色いポスト、菊川中央公園、上倉沢の棚田である。場所の選定理由は、この小説が1章から5章の組立てになっており、それぞれの章の舞台となる場所となる。なお、設置期間は特に設けていない。また、イラストについては、小説の世界観を表現するため、実際に小説のカバーイラストを描かれている、つじこ先生にイラストの制作をお願いして内諾をいただいている。委託料については、色々な出版社との契約をベースに提示いただいたので、妥当なものと認識をしている。看板のデザインのイメージは、看板を設置する場所が小説の中に登場する印象的な場面の本文を引用して、その場面に基にイラストを制作していただく予定である。イラストは5枚とも書き下ろしの作品となるので、唯一無二の、ここにしかないものにしたい。との答弁であった。

「正規職員の欠員理由と会計年度任用職員の職務内容は」との問いに、初めに、正規職員の欠員理由については、昨年度実施した採用試験において内定辞退者が出たこと及び正規職員が育児休業を取得することになったことによるものである。次に、会計年度任用職員の職務内容については、今回追加で雇用した会計年度任用職員は、教育総務課と図書館に配属しており、昨年度正職員が担当していた業務を行っている。具体的には、教育総務課に配属した会計年度任用職員は、学校施設の維持管理に関する業務、図書館に配属した会計年度任用職員は、施設管理や講座などの企画運営に関する業務を行っている。との答弁であった。

企画財政部主たる質疑

「カーナビ積載の市有車のテレビ受信機能をなくして受信料の支払いを不要にする手立てはないか」との問いに、これまでの未契約となっていた分については、今回の補正予算により計上をしているが、今後のことで、NHK静岡放送局に、テレビ受信機能を有したカーナビを設置している車両で、どうすれば受信料がかからないかと尋ねたとこ

ろ、テレビ用のアンテナを外して、受信をできなくしても、機能そのものが内蔵されていれば受信料が発生するとの回答であった。別に、カーナビを扱う業者に、テレビ受信機能を有したカーナビのテレビ機能だけを外すことは可能かと尋ねたところ、実際は不可能であり、テレビ受信機能のないカーナビに交換する以外に方法はないということであった。他市の状況も、新聞報道でアンテナを外すといった記載もされていることもあって、受信機能を外す方法が統一されていないということが見受けられるので、他市の状況を確認しつつ、撤去や取替費用と支払額を比較しながら、方法を検討していく。との答弁であった。

建設経済部主たる質疑

「道路災害防止対策事業で嶺田川上線（川上）兼用護岸改修工事、東447号線（丹野）法面復旧工事の内容の詳細と地元への説明は」との問いに、初めに、嶺田川上線兼用護岸改修工事の工事内容は、施工箇所は川上地内の長堀橋東側で江川左岸の兼用護岸の沈下が進行しているためブロック積を施工するもので、ブロック積み高さ約3メートル、施工延長約13メートルとなる。次に、東447号線法面復旧工事の工事内容は、施工箇所が丹野地内で丹野池の南付近から布引原に上っていく道路で、昨年6月の降雨により谷側法面の一部が崩壊したため、今後崩壊が拡大して道路の通行に支障が生じないように法面の対策を実施するもので、補強盛土工法で高さ3メートルから5メートル程度、施工延長は約15メートルとなる。最後に、地元への説明については、嶺田川上線と東447号線ともに、施工業者決定後、工事内容や施工期間などを示した回覧文書を作成し、自治会や関係者に周知を図るとともに、併せて施工現場においても工事期間や交通規制などをお知らせする予告看板を設置して通行する方々にも周知を図っていく。との答弁であった。

消防本部主たる質疑

なし

自由討議

黄色いポストの看板は、赤れんが倉庫、棚田等に看板を設置するだけでなく、そこでイベントも行う話もあったので、単に看板だけのPRだけではなく、そこから広がる形でやって、交流人口を増やすきっかけとなる事業としてほしい。

市内5か所に看板設置箇所が予定されているが、南北自由通路に5か所の看板設置箇所等が分かるものを掲示したら、更に興味を持ってもらえると思う。

PRのための事業は、その効果を含めて慎重に計画すべきである。

売り手市場の中で優秀な人材を確保するためには、市役所が魅力的な職場で就職したくなるような求人をしたほうがよいと思う。

消防署への就職希望者が多いと聞くが、この辺りを分析してはどうか。

一般コミュニティ助成で不採択となった自治会について、その理由が「総合的判断」で詳細は伝えられなかったとのことであるが、不採択の理由はしっかり自治会に伝えるべきである。

カーナビ積載の市有車へのNHK受信料については、アンテナを取り外して受信できないようにしても徴収されるとのことであるが、他市町での対応状況等を調査して支払わなくても良い方法を考えてほしい。

道路工事の周知については、予定箇所への予告看板設置、広報等での周知がなされているが、今後も事前周知をしっかりと行ってほしい。

法面の復旧工事のタイミングは難しいと思うが、総合的な判断をして二次災害が発生しないようにしてほしい。

以上委員長報告でございます。

○副委員長（西下敦基君） 報告が終わりました。これから質疑を行います。再質疑ございますか。もしあるようでしたら、議事録のどの場所か言っていただいた後、意見は後の自由討議でお願いいたします。

○13番（織部光男君） 副委員長。

○副委員長（西下敦基君） はい。13番。織部議員。

○13番（織部光男君） 13番織部です。NHKの受信料のことを追求されております。

カーナビでNHKを受信できないものに切り替える費用とその他検討するという行政のお話でしたけども、その回答はいつもらえるかというような質問をされましたか。

○委員長（坪井仲治君） いつまでという要求はしてございませんが、委員会として今後も追求してまいる次第でございます。

以上です。

○13番（織部光男君） はい。

○副委員長（西下敦基君） 13番。織部議員。

○13番（織部光男君） この問題は取り外す費用ですとか、新しく受信できないカーナビの費用のですとか調べることはわずかにありますし、今回、今月の全協で全部報告

ができるような状態ではないかと思えます。いつどの場で回答もらえるかその辺を確認はしてもらえますか。

○副委員長（西下敦基君） 11番。坪井委員長。

○委員長（坪井仲治君） はい。11番です。確認いたしますが、この議事録の中にもありますけどNHKの中で、まだはっきりとどういう部分をなくしたら受信料を徴収しなくていいかっていうそのあたりがしっかりしていないもんですから、その辺りも含めめすとまだ時間はかかると思えます。

以上です。

○副委員長（西下敦基君） 他にございますか。なければ、質疑は以上とさせていただきます。

次に教育福祉分科会の報告を行いますので、進行を坪井委員長と交代します。

○委員長（坪井仲治君） はい。ここからは、私が進行させていただきます。西下教育福祉分科会長から審査内容をご報告ください。

○副委員長（西下敦基君） はい。それでは報告させていただきます。

一般会計予算決算委員会教育福祉分科会報告。6月11日の本会議において一般会計予算決算委員会に付託された、「議案第44号令和7年度菊川市一般会計補正予算（第1号）」のうち、本分科会の所管事項について、6月11日に行った審査内容を報告する。

生活環境部主たる質疑

「戸籍住民基本台帳総務費、社会保障・税番号制度システム整備補助金（振り仮名対応）446万6,000円で対応する項目は、（新）通信運搬費193万4,000円の他にもあるのか。また一般財源を253万2,000円減額とした理由は。振り仮名対応は当初予算から想定していたのか」との問いに、今回、歳出予算へ計上した通信運搬費のほか、当初の法務省の説明において補助対象外とされていた戸籍への振り仮名記載に係る事務員雇用等に対して自治体の規模に応じた補助金が交付されることとなったため、これを増額したものとなる。追加された補助金の対象は、令和7年度当初予算に計上した会計年度任用職員の22か月分、1人は1年間、1人は10か月ほどの雇用にかかる費用、555万2,000円の申請を行ったところ、交付上限の253万3,000円で交付決定がされたために一般財源を減額した。との答弁であった。

健康福祉部主たる質疑

「介護給付費、当初予算編成時には年間支給量を見込むことができなかつたためとあるが詳細は。ホームヘルパーの確保は問題なかつたのか」との問いに、今回補正対象となった利用者については、令和6年11月に、重度訪問介護を月280時間で支給決定し、12月からサービスの利用を開始したが、12月の利用実績は約50時間であった。障害福祉サービスは、支給決定量の上限までサービスを利用しない方もいることから当初予算は利用実績などを参考に積算をしているため、利用実績の月50時間を基に当初予算計上をした。しかし、当初予算編成後の令和7年1月・2月の利用実績が約150時間、3月が240時間、4月が260時間と、支給決定量の月280時間に迫る利用実績となり、今後も同様の利用が見込まれるため増額補正をした。なお、サービス提供事業所の確保に問題はない。との答弁であった。

「障害者福祉総務費、サービスコードの誤りは国の過失か。国庫補助充当の積算根拠は」との問いに、令和6年11月29日に「訪問系サービス事業所が報酬請求に使用する介護給付費等単位数サービスコードが、報酬告示と一部異なる単位数で設定されていることが判明した」との通知が厚生労働省から発出されており、国によるサービスコードの設定誤りとなる。国庫補助については、補助率は2分の1で、システム改修に必要な経費35万2,000円に対し、補助額は17万6,000円となる。との答弁であった。

こども未来部主たる質疑

「保育事業費（保育支援）、保育士の採用見込みと実際の採用者数は。また、各園の採用状況と採用者数増の要因は。本奨励金事業が保育の支援の解消または充実につながるか。過去に支給実績がなく市内法人間を移動する場合に支給対象になるか」との問いに、市内の民間幼保施設が令和7年度に採用を予定した常勤の保育士23人に対し、実際採用者数は31人であった。採用の多くは、退職による職員減に対する人員補充であり、保育の提供に支障を及ぼすことがないよう、配置基準に沿った職員確保が各施設で行われている。昨年度の奨励金交付対象者へのアンケート調査では、「本事業が就職のきっかけとなった」との回答が約4割に上った。保育の支障の解消や充実には、本事業だけではなく、様々な視点からアプローチが必要と考えているため、国や県の補助金を活用するなど、効果的な施策を推進していく。また、本事業は菊川市の奨励金支給実績がなく、勤務していた市内法人から転職活動等で市内の別法人に移る場合は支給対象になる。との答弁であった。

「保育事業費（保育支援）、民営化前のおおぞら認定こども園におけるICT推進化

事業はどの程度進んでいたのか。また、今回のICT化の内容は」との問いに、民営化前のおおぞら認定こども園では、保護者への一斉連絡ができるシステムのみ導入していた。民営化後のおおぞら認定こども園では、保育計画や保育記録の作成、保護者との連絡、登降園の管理といったものを電子化する複合的なシステムの導入と併せて、パソコンやタブレットの端末を購入する予定である。との答弁であった。

教育文化部主たる質疑

「共同調理場総務費、給食費の改定に関する協議のために、なぜ給食センター運営委員会の回数が増えたのか、具体的な理由を伺う」との問いに、給食センター運営委員会の開催回数を従来の年2回から5回に増やした理由は、給食費の改定に当たって、より丁寧かつ慎重な議論が必要であると考えたためである。近年の物価高騰の影響により、食材料費の見通しが非常に立てにくくなっていること、給食費の改定は家計に直結する重大な事項であることから、短期間での決定は適当ではないと判断し、より多くの方の情報収集と意見交換の場を設けたいと考えた。第1回の委員会で従来の報告事項に加え、今後の給食費改定に関するスケジュールや委員の役割について共有し、第2回で事務局案を提示、保護者代表の委員に各学校等の意見のとりまとめを依頼したいと考えている。第3回では、その意見を集約し、事務局で再度調整、第4回で委員会としての給食費の最終的な給食費案を決定して、意見書として教育長に提出する。第5回では、当該年度のまとめとともに、翌年度以降の給食費の在り方について委員会としての方針を確認する予定である。5回の開催で終わるかどうかは今後の食材料費の高騰及び米価がどれくらい上下するかによって変わってくると考えられ、状況を見極めながら回数についても慎重に議論を重ねていきたい。との答弁であった。

「小学校教育振興総務費（学校教育課）、4,000万円の寄附金の内容と備品費の購入が小学校から中学校へ組み替えられているが、内容の詳細は。市として電子黒板を河城小学校に購入したことに併せて、ほかの学校にも導入していく計画はあるか」との問いに、河城地区の個人の方に令和6年度から継続して寄附していただいているもので、当初は令和6年度に一括で5,000万円の寄附をいただく予定だったが、寄附者ご本人のご意向により、令和6年度に1,000万円、令和7年度に4,000万円、分割して寄附いただくこととなった。寄附金の用途としては、河城小学校児童の気力・学力の向上に使っていただきたいということで、河城小学校3年生から6年生の1人1台端末190台及び電子黒板11台に充当する。当初予算では、小学校9校の3年生から6年生分の端末購入について、市

の一般財源と本補助金を充当する予定だったが、河城小学校分は全額寄附金を充当することとなったため、該当校分の財源を菊川西中学校分の端末購入費に充当するように組み替えをした。電子黒板について、市としては導入を考えているが、大変高価な機器なので財政負担を考慮して、徐々に他の学校に展開していきたい。との答弁であった。

自由討議

河城小学校への寄附による補正の件は、非常にいい話でありがたい。大切なことは、寄附者の意向を酌むこと。こちらの都合で話をするべきではないと考える。こうした寄附文化等が日本の文化に根づいてくれれば良いと思う。今回の補正全般について、寄附の問題と物価高騰という形でやむを得ないと思った。

物価高騰の件について先日も浜松等でプレミアム商品券による販売促進や、生活困窮者のための補正が出た。そういう対応が必要になってくるのではないか。市としても対応を考えていったほうが良いと思う。

保育士等就業奨励金制度について、過去に支給実績のない保育士が市内で他法人の保育施設に異動した場合でも、1度だけ支給対象になるということであれば市内勤務の保育士が市外へ出て行く抑制にもなるので構わないと考える。保育士は補助が出るようになったが、介護士や看護助手が近年問題視されている。制度自体をしっかり確立して、補助を出さずにその正規な働き方に正規な報酬を払うという社会になるのが一番望ましいと思う。使命感を持って保育士になりたいという人に、それに見合う報酬が出る。介護士が高齢者の面倒を見たいというときに、それに見合う報酬が出るという社会が進む方向で施策を展開していただきたい。

保育士等就業奨励金は、菊川市は10万円だが隣の掛川市は20万円であり、それで市内からの転出抑制になっているか疑問に感じた。

今年は民間へ移行したおおぞら認定こども園勤務の対象者8名を抜いて23名が対象者となった。昨年実績が8名に対して大幅増となったため、増えた要因や、園によって偏りがないかについては、行政のほうでできる限り把握し、今後の分析材料にしてもらいたい。

保育施設のICT整備に関して、今回おおぞら認定こども園の補正予算が計上されたが、全体的に業務改善や負担軽減が進めばよいと思った。

JICAが行っている事業で、例えばブラジルの人を仲介役として市に入れて、来る方の補助、援助するというのをやり始めていると聞いた。菊川病院も外国人を入れたと

きに J I C A とつながりを持ち、そういう援助で来る方のしっかりサポートしてほしいなというのを感じた。

以上報告となります。

○委員長（坪井仲治君） はい。報告が終わりました。これから質疑を行います。質疑はございますか。よろしいですか。以上で質疑を終了いたします。

それでは、ただいまから議会基本条例第 11 条第 2 項の「市長提出議案に関して審議し結論を出す場合、議員相互間の議論を尽くして、合意形成に努めるものとする」との規定に基づき、委員間の自由討議を行います。

ご意見のある委員は挙手の上発言をお願いします。

○副委員長（西下敦基君） はい。

○委員長（坪井仲治君） はい。15 番。西下委員。

○副委員長（西下敦基君） はい。15 番西下です。総務建設の NHK のカーナビの件で、各市町新聞を見ていくとほとんどやられてるというような感じですので、ちょっと国の法律の関係になってくると思うんですけど、ここはもうちょっと NHK の受信料全体を考えていただいた方がいいのかなと私は思いました。

以上です。

○8 番（渡辺 修君） はい。

○委員長（坪井仲治君） はい。8 番。渡辺委員。

○8 番（渡辺 修君） 8 番渡辺です。考えるという以前に使ってもいない料金を延々と広く徴収しているということが異常な事態だと思います。これは地方がしっかり声を上げて、なくして行かなければならない問題だと思うんです。カーナビに機能がないのって言うんですけど、まともなカーナビを買うとほとんどついてくるという実態があるので、その辺も難しいのかなと思います。

以上です。

○委員長（坪井仲治君） はい。その他ございますか。関連で結構です。どうですかね。

○14 番（小林博文君） はい。

○委員長（坪井仲治君） はい。14 番。小林委員。

○14 番（小林博文君） NHK の件なんですけども、一般の方は実は入っていればそれで全部 OK なんですけど、事業者ということでホテルとか企業さんは全部市役所と同じような扱いになってるわけです。ちょっと放送法とかいろいろ調べたんですけど、

違反だけの罰則はないです。ただ、最高裁判決では契約は自由なんだけれどもNHKの契約に関してはある程度強制力もあって、NHK側から強制的に契約されて支払いを命じられるっていう判例もあるので、公共機関としてその辺をあくまでも法律がそうになっている以上は従うしかないというのは、やむを得ないかと思えますし、今皆さんもおっしゃってる通り、ちょっとそれにしてもカーナビとかっていうのは不自然かなっていうところは法律的なところをやっぱり国の方で、見直していただくといいところ働きかけるのが必要かなと。今制度上そうになっている以上は制度に従うしかないのかなと思いましたので、今後どうしていくかっていうのを考えていく必要がある。昔の放送の制度とはだいぶ変わってきてるんで、その辺は考慮すべきだと思います。

以上です。

○委員長（坪井仲治君） その他ございますか。はい。13番織部委員。

○13番（織部光男君） 13番織部です。やはりこういった国策の法律が間違ってる場合は地方自治体としましてはもう意見書を出すしかないです。できることといえば。ですからこれは執行部で出してもらうのか議会で出すのかわかりませんが、早急にこれを出していくと。そしてそれは全国的なレベルにまで持っていくということをしないう限り国は動かないと思えます。ぜひそのような形をとってもらいたいというところでは。

○委員長（坪井仲治君） その他ございますか。はい。15番西下委員。

○15番（西下敦基君） はい。15番西下です。県内各市町でも結構新聞に載っているんで、各市町バラバラにではなくて、県内全市町で一斉に言うとかそういったことを行政で考えていただければなと私は思いました。以上です。

○委員長（坪井仲治君） NHKのあたりはこのあたりにしていただいて、ちょっと国の話でございまして、これは効率的に合致しているか否か、難しい問題でございましてので慎重な答弁が必要かと思えますので、このあたりしてください。

別にその他ございますか。

○14番（小林博文君） はい。

○委員長（坪井仲治君） はい。14番。小林委員。

○14番（小林博文君） いぬじゅんさんの看板の件ですけども、いろいろと僕の考えとかも含めて言わしてもらおうと、看板を作るのはいいんです。建てるのもいいだけ

ども、ちょっと僕が気にしているのは、今ちょっと撤去してないんですけど、駅前の小山ゆうさんがイラストを描いたものが並んでいて、最初の頃、除幕して僕も除幕に立会いましたけど、そこを広げていったんですが管理がすごく、市の管理で作っちゃうと放っておくんです。かなり色あせてきて「あれ誰の絵なの」「大丈夫なの」という声も聞いたりした中で、今工事でちょっと見えなくなってるんですが、あの二の舞を踏んで欲しくないなと思います。もう1個心配してるのは、唯一無二ってこううたと、アルミの板で下はカナノコで切ったら持ってかれちゃうんじゃないかっていう心配もあり、場所によっては棚田とか中央公園、市役所の前だとやりにくいと思うんですけどそういう盗難防止とか今後の維持管理っていうところはしっかりメンテっていうのをね、つけたらつけっぱなしとかではなくてやってほしいと思います。イベントをやるとかっていうのもいいと思うんですけど、そのもの自体をちゃんとつけたものを維持管理していくっていうところは十分やってほしいなと思いました。

以上です。

○委員長（坪井仲治君） その他。はい。7番。石井委員。

○7番（石井祐太君） はい。

はい。7番石井です。関連してなんですけど、今回この議題が出た際にその佐塚書店さんに行ってこの本を購入して読んでみたんですけど、そこで思ったのが入ってまず本屋の中に、この本がどこに置いてあるかちょっとわからない状態で、普通、まちで押しているんだったらポップの一つでもあってもいいのかなと思うけどもポップもないし、店の人に「どういう本か知っていますか」と聞いて、「あー」みたいな、なんかあんまりはっきりした回答ではなかったっていうところで、市長がお金をかけないで、できることを探すっていうのを方針とされてるっていうところで、そういうところのPR協力のお願いとかがお金かけなくてもできる部分だと思うんですが、まずそこができてないのにこういう事業にお金を出してやるっていうのが何か実際どうなのかなっていうところはちょっと感じてはいます。

○委員長（坪井仲治君） ありがとうございます。はい。5番。奥野委員。

○5番（奥野寿夫君） はい。5番奥野です。

私もちょっと書店に行ったんですけど、戸田書店のほうに行ったら入口に並べてありまして、サイン入りのものがあつたのでサイン入りの方を買ってきたんですけど、まだ、ちょっと完全に読み切ってはいないんですけど、このことについては委員会

の議論でもありましたけれども、市民の中には必要な事業なのか、それだけのお金をかけてのPR効果がないんじゃないかという意見もありました。一応そのことも伝えつつ、私としては未知数の事業であるけれども、必要ないという判断までは行くようなものではないかなというふうに思っているところです。物価高騰対策にもうちよつと積極的な部分があってもいいように思いましたけれども、そういう市民の声があったことだけを紹介いたします。

○委員長（坪井仲治君） その他ございますか。はい。16番。山下委員。

○16番（山下 修君） 16番山下です。

教育福祉の方だと思うんですけども、この保育士等の奨励金の関係で自由討議の中にあるんですが、菊川市が10万円それから掛川市が20万円、財政力があるところで人の流れがなくなってしまうんですけどね。やっぱり同じ地域においてはですね、自治会単位である程度の協議をして奨励金の金額等をすり合わせていただくような形の会議を持っていた方がいいと思います

○委員長（坪井仲治君） その他ございますか。はい。14番小林委員。

○14番（小林博文君） はい。今その件に関連してですけども、菊川の10万円は1年縛り、要は1年勤めていただく方に10万円ということです。掛川を調べると2年縛りなんですね。2年勤めていただくのを条件に20万円、菊川で2年勤めても20万円出ないんですけども、今山下議員がおっしゃる通りでこれ何でもそうですよね、看護師さん（東海アクシス）の奨学金もちょっと某市では看護師を多く取ろうとしたりもするし、やりたい職について正規な報酬を払うっていう社会が実現するのが理想的だと思うもんですから、その辺で一時的なお金で人のやり取りするっていうのはよろしくないのかなと思うんで、一番いいのはやりたい職業にちゃんと正規の報酬を払われるっていうところがいいと思うんですけど、今あった通りやっぱり横のまちで倍払っているのは良くないんで、ある程度統一感持った方がいいかなと思いました。

○委員長（坪井仲治君） 6年度アクシスさんから1名菊川市に入られております。非常に少なくなっております。その他ございますか。

○13番（織部光男君） はい。

○委員長（坪井仲治君） はい。13番。織部委員どうぞ。

○13番（織部光男君） 13番織部です。教育文化部で例の給食費の経費がかかってしまって、そして補正が

組まれております。これが、市の職員のちょっと対応の悪さ、報告の悪さというのが原因にあるということが言われました。これが行政の方で、懲罰規程をどのようにするのかは、はっきりとはされておられませんけれども、あまり責めるようなことはしたくないというようなこともありました。しかし、この物価高がこれだけあってその担当職員がそのアンテナに引っかからないような状況では、私は、仕事は務まらないと思うんです。ですからそういった意味である程度規定にあって厳しくはなくてもいいんですけども、それなりの対処をしてほしいとそういうことを要望しました。

○委員長（坪井仲治君） ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

以上で自由討議を終わります。

それでは採決を行います。「議案第 44 号令和 7 年度菊川市一般会計補正予算第 1 号」は原案の通り可決すべきものとするに賛成の方の挙手を求めます。

挙手全員でよろしいですね。はい。

ありがとうございます。

挙手全員、よって議案第 44 号は原案の通り可決すべきものと決定をいたしました。だいまの審査の結果は 6 月 23 日の本会議にて報告をさせていただきます。

これをもちまして、一般会計予算決算委員会を閉じたいと思います。最後に西下副委員長に閉会のご挨拶をお願いします。

○副委員長（西下敦基君） はい。

ご審議ありがとうございました。

梅雨に入ったはずなんですけどだいぶ雨が上がってしまったのかなと思います。だいぶ暑くなってきて熱中症の心配も出てきますので、お気をつけてお過ごしください。

今日はお疲れ様でした。

○事務局長（落合和之君） 互礼をもって終わりたいと思いますので、ご起立ください。相互に礼。ありがとうございました。

閉会 午前 9 時 37 分